

研究テーマ：「表現する力を向上させ書く力を付けるための指導の工夫」

所属 野市町立野市中学校

氏名 田村 千佳子

RG JH8

1 研究の背景

3 年生 4 クラス 142 人を担当している。1 年から継続して、授業始めの音読に取り組んでおり、大きな声で教科書を読むことができる。授業にもよく集中し英語の学習活動を楽しむことのできる生徒が多い。発表も活発で、全員参加の授業ができる。

全時間 TT で対応ができるので、授業中の文法理解はできているが、定着が十分でない。CRT の結果から書く力を付けることが課題であることがわかった。実力テストの結果の点数分布のグラフが、平均点当たりの人数が落ち込む M 字型の分布になり、点数の低いほうの山にいる生徒たちに書く力を付けることが必要である。1・2 年の内容が身に付いているという自信を持っている生徒が 35% と大変少ない。少人数分割授業にも取り組んだが、時間数を確保することが難しく、意欲づけはできるが基礎学力の定着について十分な成果が得られたとは言えなかった。

2 リサーチ・クエスチョン

1・2 年の基本的な内容でつまづいている生徒が書く力を付けるにはどのようにすればよいだろうか

3 予備調査

① 少人数分割クラス授業観察の結果

少人数クラスへの参加を楽しみにしている生徒と、あまり気持ちの進まない様子を見せる生徒がいた。前向きに取り組めない原因は、生活面での不安定さもあつたが、プリント学習には積極的に取り組めた。SKIT の練習は気が向かなかつたり、その反対など、内容によって違いがあつた。語彙力が付いていないので、単語は言えても書けないし、文の構成も身に付いていない。SKIT の原稿作り・練習に十分な支援ができたので、クラスでの発表は生き生きとできた。

② 生徒の英語学習意識

英語の分割授業についてのアンケート(集計結果 別紙)

- ・今の一斉授業がわかりやすいと思う生徒が 70% であるが、1、2 年の内容が身に付いていると思わない生徒が 64% と多い。
- ・英語の学習で難しいと感じている項目は、英語で文を書くことが一番多く 75% である。CRT の結果とも一致している。また、文法を理解することをあげた生徒も多く、分割の授業でやってもらいたいという希望内容になっている。

③ 英語力を示すデータ

CRT	得点率	(全国)
・観点別 コミュニケーションへの関心意欲態度	70. 1	(72. 7)
表現の能力	62. 6	(65. 3)
理解の能力	66. 5	(65. 0)
言語や文化についての知識・理解	63. 5	(60. 5)

・領域別	全国比 (全国=100)
聞くこと	101
話すこと	102
読むこと	106
書くこと	94

・小領域別では、「伝えたい内容を考え正しく書くこと」が全国比93と低く、ここが課題である。

4 仮説の設定

仮説1 授業始めのリーディングと単語・文のディクテーションを継続すれば、英語の構文が身に付き文を書く力が付くのではないか。

仮説2 読み物教材のマッピングや、スラッシュリーディングを取り入れることによって、構文を意識して文を読み、語順を意識できるのではないか。また内容についてのペアワークによる会話に取り組むことによって、文を聞き取り、表現する力が付くのではないか。

仮説3 授業の中で、自己表現を書く機会を増やし、授業や家庭学習で英作文を書く反復練習をすれば、英文を書くことに対する苦手意識がなくなるのではないか。

5 計画の実践

- ・教科リーダーの指示で授業始めの音読を行う。また、毎時間、単語 10 個と 1 文のテストに取り組む。
- ・読み物教材を利用して、スラッシュリーディングやペアワークをする。
- ・英作文の反復練習に取り組む。

6 結果の検証

仮説1 ディクテーションテストに意欲的に取り組み、90%の生徒が満足できる結果を出し語彙力がUPした。リーディングテストでは、34人中4名がすらすら読めなかったが、最後まであきらめずに読めた。

仮説2 いろいろな手法に戸惑いを見せる生徒もいたが、それぞれの活動を楽しむ生徒も多かった。

仮説3 英作文にチャレンジしようという意欲は高まっているが、積極的に自信を持って発表できる生徒がクラスに7~8人と、まだ少ない。

7 成果と課題

初めは少人数分割授業をすることで、1・2年生の内容が身に付いていない生徒に力を付けることに取り組もうとしていたが、十分な時間を取れないことや、アンケートから一斉授業がわかりやすいという意見が意外に多かったことから、一斉授業の中で力を付ける工夫をするべきだと思うようになった。

読み物教材やALTとの授業で、マッピングやスラッシュリーディングの手法や、ペアワークによる内容の共有などに取り組んだ。いろいろな手法に戸惑いを見せる生徒もいたが、それぞれの活動を楽しむ生徒も多く、英語が好きだという生徒の声も聞かれた。十分な結果は出せなかったが、継続してやれば力が付くという手ごたえを感じた。

第1回実力テストの点数分布のグラフと第5回を比べると、M字型が解決できてはいないが、M字の2つの山が、5回目の方が10点ずつプラスの方向に動いている。内容が難しくなり、90点以上は減ったが、全体的には力が付いてきていることがわかる。

語彙力が付いてきたので、3年生はあと少しの期間ではあるが、英作文の反復練習に取り組んで書く力を定着させたい。これからもいろいろな手法を学び、1年生から継続して取り組みたいと思う。